



の伝説があり、田村麻呂が創建したと伝えられています。その後、文明年間(1469~1487)に南部光政が袋観音大菩薩の御堂を再建。正徳元年(1644)、津軽3代藩主信義が、津軽33観音札掛所を指定し、黒石では26番に住吉宮(神明宮隣り)と27番に白山姫神社が選ばれました。なお、天明8年(1788)に現在地に移築されたと伝えられています。



## 5 津軽伝承工芸館



津軽伝承工芸館は、津軽の伝統的な文化を全国に発信する広域拠点施設です。単に見せるだけでなく、津軽の風土と文化に触れたり、直接体験のできる場所を提供しています。また、津軽塗りなどの伝統工芸品や、ねぶた、焼き物等の創作に取り組んでいる人々に、スペースを提供し、製作活動の場を通して若い人々が文化を継承していくような意識を啓発する施設でもあります。

津軽伝承工芸館は、津軽の伝統的な文化を全国に発信する広域拠点施設です。単に見せるだけでなく、津軽の風土と文化に触れたり、直接体験のできる場所を提供しています。また、津軽塗りなどの伝統工芸品や、ねぶた、焼き物等の創作に取り組んでいる人々に、スペースを提供し、製作活動の場を通して若い人々が文化を継承していくような意識を啓発する施設でもあります。

## 6 津軽こけし館



津軽こけし館では、全国から集められた表情豊かな4,000本のこけしが展示されています。平成12年4月にオープンした津軽伝承工芸館とも隣接した施設です。

## 7 新・温湯温泉共同浴場 鶴の湯



山形地区のほぼ中心地に温湯町内があってその中心にあるのが共同浴場鶴の湯です。そしてその回りを旅館などが取り囲んでいます。温湯温泉の歴史は古く、今から450年以上も前にさかのぼります。

山形地区は、黒石温泉郷として知られ、中でも温湯温泉は、入浴後も温かさがさめにくい熱の湯として、その名をはせています。温湯のいわれは、よく「ぬるい湯」と間違われるようですが、本来は「温まる湯」と言う意味で、地名が付けられました。

## 8 落合共同浴場



国道102号を十和田湖方面に向かい、温湯トンネルを抜けると、国道394号との交差点に差しかかります。その信号から落合大橋を渡ると、落合共同浴場があります。

## 9 一ノ渡遺跡

昭和57年の浅瀬石川ダム建設に伴い、一ノ渡遺跡の発掘調査が行われ、102基の配石遺構、2基の組石遺構、そして3基の立石遺構が発見されています。また、これらの遺構のほか、ヒスイ製の硬玉製大珠(こうぎょくせいたいじゅ)と呼ばれている装飾品が出土しています。形がカツ才節に似ていることから『鯉節形大珠』とも呼ばれています。大珠に使われたヒスイの原産地は新潟県青梅町であることが判明しましたが、交易ルートや流通機構については、まだ解明されていません。

### ◇大河原火流し

約650年前から伝わる大川原地区の伝統行事です。毎年、旧盆の8月16日の夜、中野川を赤々と染めながら「火の舟」を勇壮に走らせる奇習として全国的に知られています。この伝統行事の由来は、後醍醐天皇の第八皇子宗良親王(むねながしんのう)の子孫が北朝方に追われ、大川原に住みつき、戦死者の慰霊のために始めた精霊流しが原形だといわれています。現在では、稲作の豊凶を占い、住民の無病息災を祈る行事として行われています。昭和58年1月20日に県無形民俗文化財に指定されています。

## 1 中野神社

「津軽三不動」のひとつ中野不動尊堂が祀られていた中野神社は、大同2年(807)に、坂上田村麻呂が建立したと伝えられています。不動尊堂は、明治3年(1870)5月、神仏分離令で、法眼寺(山形町)に移され、中野神社は、日本武尊を祀るようになりました。

### 【中野もみじ山】 中野紅葉

(もみじ)山は、中野川や不動の滝・中野神社などとよく調和したモミジの景勝地です。中野のもみじの由来は、温湯村に一泊し中野山のもみじや滝に魅せられた弘前九代藩主津軽寧親(やすちか)が、京都からカエデの苗木約100本を取り寄せ、享和3年(1803)年4月13日中野不動尊へ奉納し、現在の場所に3本のモミジの苗木を手植えをした。それ以来、中野のもみじはより有名になり、京都の紅葉の名所である「嵐山」に対し、「小嵐山」と呼ばれるようになったとされています。このもみじ3本は、「お手植えのもみじ」と呼ばれ、現在まで大切に保存され、昭和58年2月1日には、黒石市の天然記念物に指定されました



【モミの木】 推定樹齢200年といわれる「モミの木」2本は、橋を渡ってすぐの隨身門前に対植えされています。中野神社のモミの木は、神前の対植えであることに価値があり、昭和58年黒石市の天然記念物に指定されました。

## 2 薬師寺

薬師寺は黒石にいた花山院忠長が、寛永元(1624)年、温湯を訪れた際に薬師如来を安置したという言い伝えがあるほか、延宝6(1678)年、その傍らの庵を宗運が譲り受け、

翌7年、黄檗宗の道場を初めて開いたと伝えられています。温湯には庵が置かれ、薬師堂と称された後、享保9(1724)年に弘前五代藩主・信寿が境内の紅葉を賞賛し、「瑠璃山薬師寺」の寺号を受けました。



【石割楓】 境内の石段を登った東側には大きな岩があり、それを割って岩上にまたがる形で、根を四方に大きく広げた「楓の樹」が生えています。楓は、その風ぼうが岩手県盛岡市の「石割桜」に似ていることから「石割楓」と呼ばれ、昭和58年2月1日に黒石市天然記念物の指定を受けました。

## 3 浄仙寺

文政7年(1824)に是空行者が開山。修行のかたわら青少年に説法し、読書や習字のほか道徳などを教えたことから、寺小屋「黒森学校」へ発展しました。明治時代からが最も隆盛で、津軽一円から学問を志す若者が集まり、政治・経済・文学界など各方面へ多くの優秀な人材を輩出しました。入り口の山門には、昭和58年に市の有形文化財に指定された浄仙寺仁王像が、境内を守護するように収められています。



## 4 白山姫神社

別名「袋観音堂」ともいわれ、午年の一代様として古くから信仰を集めてきました。参道の脇には、一部が苔に覆われている石彫りの33観音像が並んでいます。

同神社の歴史は古く、大同年間(806~810)、蝦夷討伐の將軍・坂上田村麻呂が袋の地に陣を張った際、凶袋凶に入れた勢至観音像を大木にかけて武運長久を祈願したと